

株主のみなさまと東芝をつなぐ情報誌

# 株主通信

2014年 夏号

本株主通信では、5月に公表しました2013年度決算と経営方針についてご報告いたします。

## 2013年度は対前年で大幅増収となりました

売上高は、6兆5,025億円となり、全ての部門が対前年で増収(合計7,755億円)となりました。特に、スマートフォン、タブレット、薄型パソコン、メモリカードなどの商品においてデータ記録・保存用として組み込まれるNAND型フラッシュメモリの販売が年間を通じて好調に推移したことにより、電子デバイス部門が大幅な増収となりました。

営業損益は、2,908億円を達成し、対前年で47%増の大幅増益となりました。特に、NAND型フラッシュメモリが年間を通じて高い利益率を維持したことにより、電子デバイス部門が過去最高となる2,385億円の営業損益を記録しました。

## 「創造的成長」の実現に向け、経営方針を定めました

当社がめざすところを、人々の「安心・安全・快適な社会 - Human Smart Community (ヒューマン・スマート・コミュニティ)」の実現と位置づけ、エネルギー、ストレージ、ヘルスケアの各分野で貢献してまいります。世界的な環境変化の潮流を正しく見極めることに加え、いわゆる「モノ」の提供にとどまらず、モノから実現される「こと」をお客様にとっての真の価値ととらえ、時代に適合した新しい顧客価値を提案してまいります。これにより市場の伸長に過度に依存せず、東芝ならではの方法で、自ら成長の原動力を創り出していく「創造的成長」を実現していきます。

成長をより確実なものとするには、財務体質の強化も重要だと考えています。「創造的成長」と財務体質

## 株主のみなさまへ

株主のみなさまには、日ごろから多大なご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

本株主通信は

2014年3月末時点での株主のみなさまにお送りいたしますことをご了承ください。

強化の両立を図るべく、財務規律を重視した経営を行います。エネルギー、ストレージ、ヘルスケアの各分野における現行の製品・サービスをさらに強化、成長させ、確実に収益確保を図りたいと思います。発電システム、エレベータ、医用システムなどさまざまな分野で保守やメンテナンス事業の強化を図り、安定的な収益獲得をめざします。また、パソコン、テレビ、白物家電などのライフスタイル部門においては構造改革を進め、継続的黒字化を実現します。

## 2014年度は過去最高となる営業損益をめざします

このような経営方針、戦略・施策を着実に実行することで、2014年度は過去最高となる営業利益3,300億円をめざしています。株主のみなさまには、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

2014年6月

代表執行役社長

田中久雄



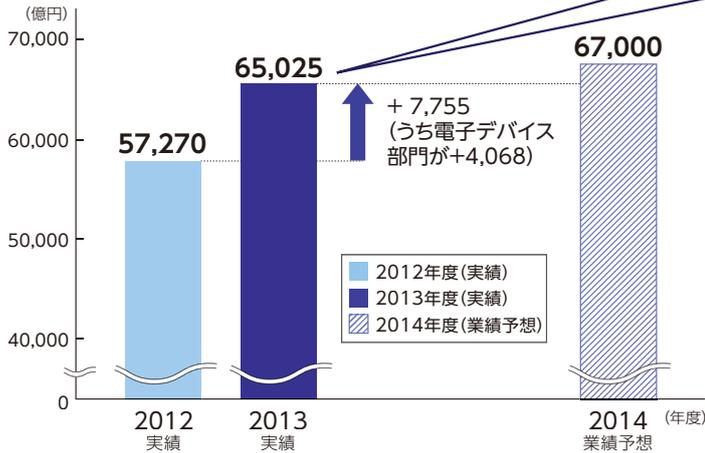
# 1. 2013年度通期連結決算概要

5月8日に2013年度決算を公表しました。本株主通信では、業績や財務体質について概要を抜粋してご紹介します。2013年度通期連結決算の詳細は、東芝ホームページの投資家情報 ➡ IRイベント ➡ 決算説明会 でご覧いただけます(説明動画も視聴できます)。

## 1-1. 業績

### (1) 売上高

全ての部門が増収となり、前年度と比べて7,755億円増収の6兆5,025億円となりました。

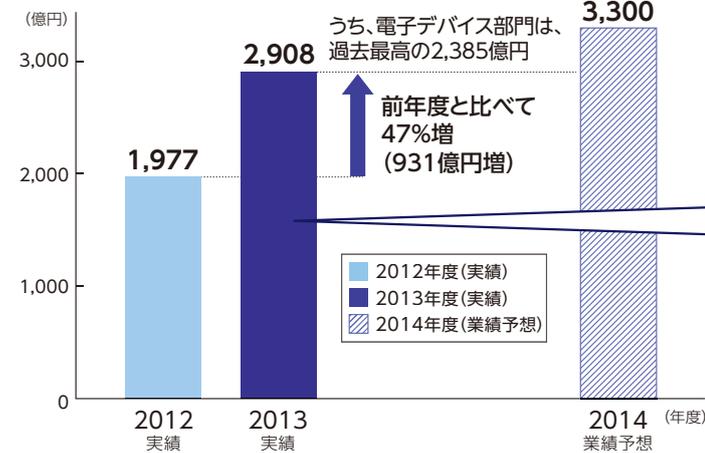


### 2013年度 売上高について

- NAND型フラッシュメモリの販売が好調に推移し、電子デバイス部門の売上高が1兆6,934億円となり、前年度と比べて4,068億円の増収となりました。

### (2) 営業損益

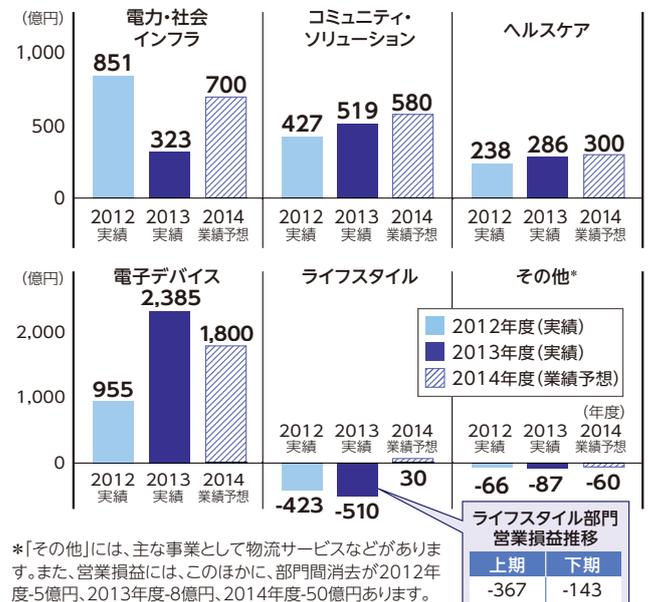
前年度と比べて47%増(931億円増)の大幅増益となる2,908億円を達成しました。



### 2013年度 営業損益について

- NAND型フラッシュメモリが年間を通じて高い利益率を維持し、電子デバイス部門が過去最高の2,385億円を記録しました。
- 電力・社会インフラ部門にて米国の原子力発電所の事業開発会社(NINA社\*)の資産価値を保守的に見直したことにより、-310億円の影響があったものの、経営の柱として強化しているエネルギー、ストレージ、ヘルスケア分野である電力・社会インフラ、コミュニティ・ソリューション、ヘルスケア、電子デバイス部門の合計は3,513億円となりました。

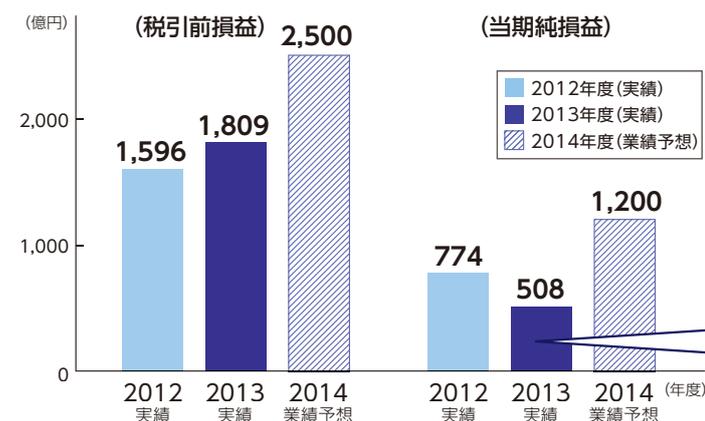
\* Nuclear Innovation North America LLC



\*「その他」には、主な事業として物流サービスなどがあります。また、営業損益には、このほかに、部門間消去が2012年度-5億円、2013年度-8億円、2014年度-50億円あります。

- ライフスタイル部門は赤字となりましたが、上期から下期にかけて大幅に損益が改善しました。

### (3) 税引前損益、当期純損益



### 2013年度 当期純損益について

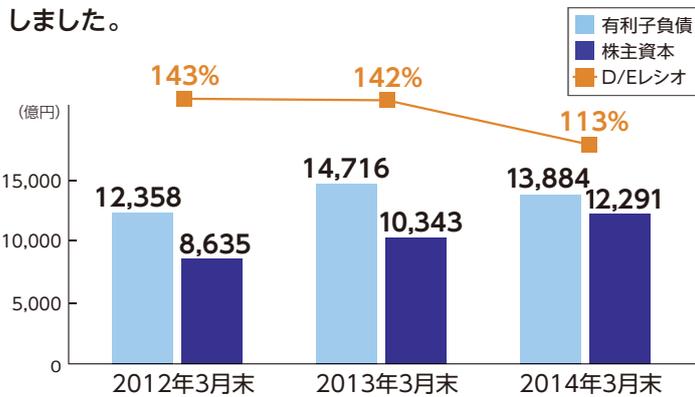
NINA社の資産価値見直し(-310億円)、光学ドライブ事業の非継続化(-150億円)、復興特別法人税の廃止に伴う繰延税金資産の取り崩し(-98億円)などにより減益となりました。なお、剰余金の配当(期末)は1株につき4円となりました。

※本株主通信では、「継続事業税引前当期純損益」を「税引前損益」として、「当社株主に帰属する当期純損益」を「当期純損益」として表示しています。

## 1-2. 財務体質

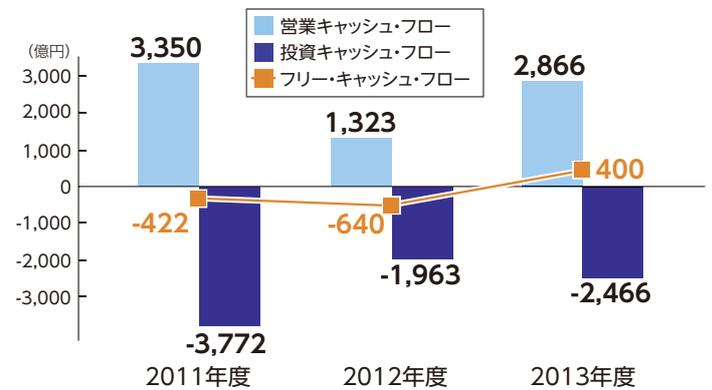
### (1) D/Eレシオ

有利子負債を前年同期と比べて800億円以上削減させるなどし、D/Eレシオ(デット・エクイティ・レシオ:有利子負債/株主資本)を前年同期から29ポイント改善し、113%としました。



### (2) キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローを前年度から1,500億円以上増加させ、フリー・キャッシュ・フローを前年度の-640億円から400億円の黒字へと、1,000億円以上改善させました。



## 2. 2016年度までの経営方針の概要

5月22日に、2016年度までの経営方針を公表しました。本株主通信では、概要を抜粋してご紹介します。

経営方針の詳細は、

東芝ホームページの投資家情報 ➡ IRイベント ➡ 経営方針・事業説明会 でご覧いただけます(説明動画も視聴できます)。



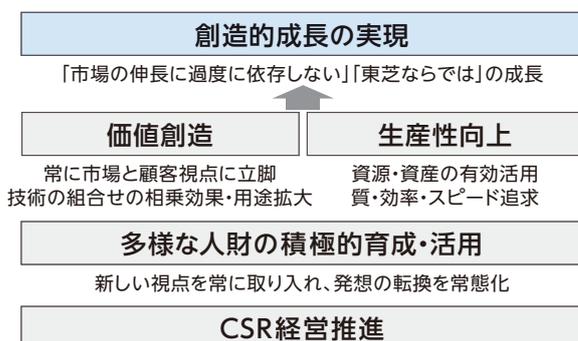
### 2-1. 東芝のめざす姿と経営方針

(1) 東芝のめざす姿 - 「安心・安全・快適な社会 - Human Smart Community」の実現に貢献します。



- 「安心・安全・快適な社会 - Human Smart Community (ヒューマン・スマート・コミュニティ)」の実現をめざし、エネルギー、ストレージ、ヘルスケアの各分野で貢献します。
- 人口増加と高齢化、食糧・水・空気、情報社会化、資源・エネルギー問題、地球環境問題など世界的な環境変化を正しくとらえます。
- いわゆる「モノ」の提供だけにとどまらず、「モノ」から実現される「こと」を、顧客にとっての真の価値ととらえ、時代に適合した新しい顧客価値を提案してまいります。

(2) 東芝グループ経営方針 - 「創造的成長」の実現をめざします。



- 既に当社グループのなかに存在する幅広い技術資産をこれまでと異なる新しい領域に適用し、相乗効果を発揮させ、新たな顧客価値を創出し、成長を実現してまいります。
- 成長をより確実なものとするべく、あらゆる業務において、質や効率、スピードの向上を図り、生産性向上を追求します。
- その原動力、基礎となる多様な人財の育成・活用、CSR経営推進を着実にやってまいります。

### (1) 成長のための原動力を強化、創出します

#### 既存の製品・サービス強化に向けた主な取り組み

##### 〈電力・社会インフラ〉

エネルギーを「創る」(高効率の火力発電など)、「送る」(効率的な電力の送配電など)、「貯める」(蓄電池など)、「賢く使う」(高効率なモーターなど)の各分野で、高効率・グリーンエネルギー技術により地球環境に貢献します。

##### 〈コミュニティ・ソリューション〉

横浜、川崎、フランスのリヨンでの自治体との連携や、本田技研工業、積水ハウスなどパートナー企業との協業による実証実験・実証事業の知見を活かし、エネルギーの安定供給と安心・安全で快適な地域社会の実現に貢献します。

##### 〈ヘルスケア〉

画像診断システムで世界トップ3をめざすとともに、7月に社内カンパニー「ヘルスケア社」を新設し、「予防」、「予後・介護」、「健康増進」などの新規分野も強化し、事業領域の拡大をめざします。

##### 〈電子デバイス〉

NAND型フラッシュメモリを中心に、微細化や次世代技術の開発、効率的な投資により高収益体質の継続をめざします。企業向けにも製品展開し、事業を拡大します。

##### 〈ライフスタイル〉

家電事業では国内、アジアでのブランド力を活かし、売上高・損益の向上をめざします。テレビ、パソコン事業ではさらなる効率的な事業運営を推進し、継続的な黒字化をめざします。

#### ニュー・コンセプト・イノベーション\*の取り組み(事例)

\* 既に当社グループのなかに存在する幅広い技術資産を、これまでと異なる新しい領域に適用し、相乗効果を発揮させ、新たな顧客価値を創出する「ニュー・コンセプト・イノベーション」を推進しています。

##### 〈トンネルや橋梁など社会インフラの健全性の監視〉

ひび割れなどを写真から検出する技術を開発し、英国ケンブリッジ大学と共にロンドンの送電線トンネルにて、自動撮影による実証実験を開始しました。これには、当社グループの画像処理技術が応用されています。



##### 〈植物工場〉

神奈川県にある当社の建屋を植物工場に転用する工事を開始しました。2014年度上期中に、長期保存ができる無農薬野菜を出荷すべく準備をしています。植物工場には、当社グループの水、照明、空調、半導体生産管理などの技術が応用されています。



### (2) ヘルスケア、ストレージ、エネルギー分野へ重点的に投資します

#### 設備投資・投融資

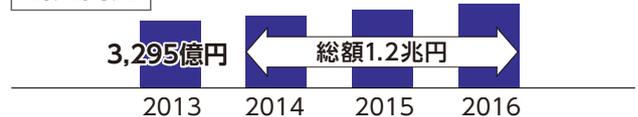


##### (主な投資分野)

- 15ナノメートル\*製造プロセスを用いたNAND型フラッシュメモリや三次元構造のNAND型フラッシュメモリ量産への投資
- ヘルスケアの新規事業領域への投資

\* 10億分の1メートル

#### 研究開発



##### (主な投資分野)

- 将来有望な次世代エネルギー、ヘルスケアなどの分野における事業育成投資
- SSD\*やHDDに関する技術開発投資

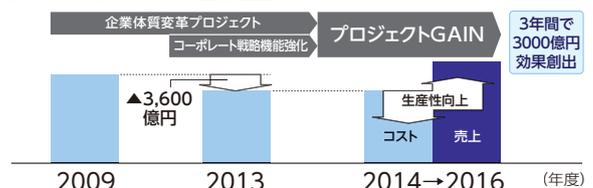
\* ソリッド・ステート・ドライブ

### (3) 生産性向上により3年間で3,000億円の効果を創出します

「プロジェクトGAIN\* (ゲイン)」の推進による生産性の向上

\* Global Action for Innovative Enterprise

調達、生産、物流、品質、営業、開発、人的生産性、間接業務・拠点など、すべての領域で、ゼロから活動を見直し、総コストを最適化し、資源・資産の有効活用を推進します。



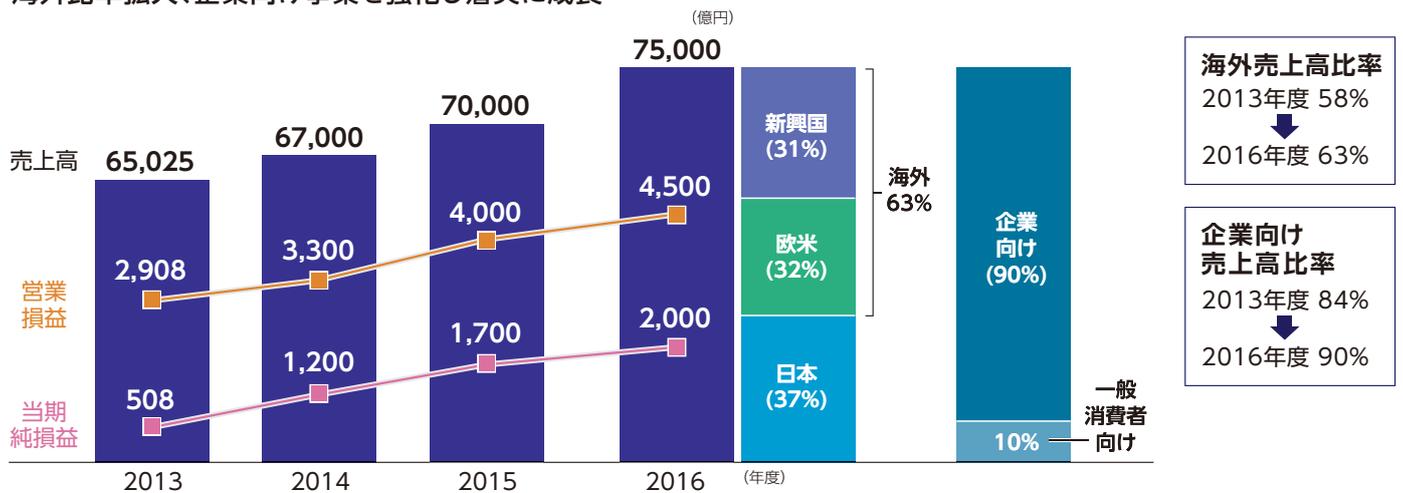
「稼ぐ力」を向上させ、効果的に投資判断を行うことで、キャッシュを創出します

創造的成長の実現と財務体質の強化を両立させます

## 2-3. 創造的成長の実現と財務体質の強化

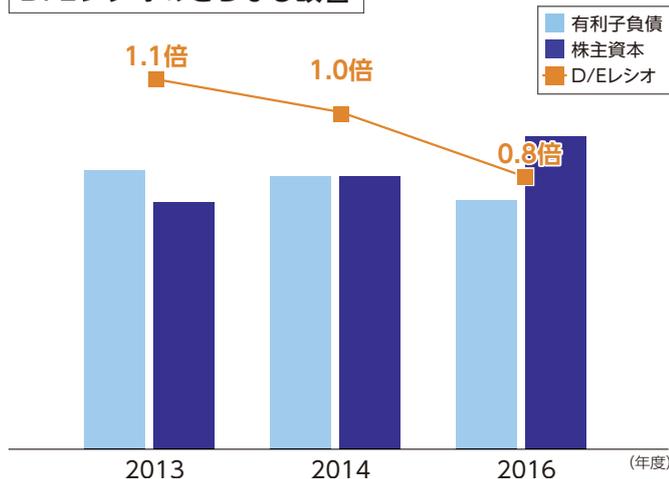
### (1) 創造的成長の実現(2016年度までの見通し)

海外比率拡大、企業向け事業を強化し着実に成長



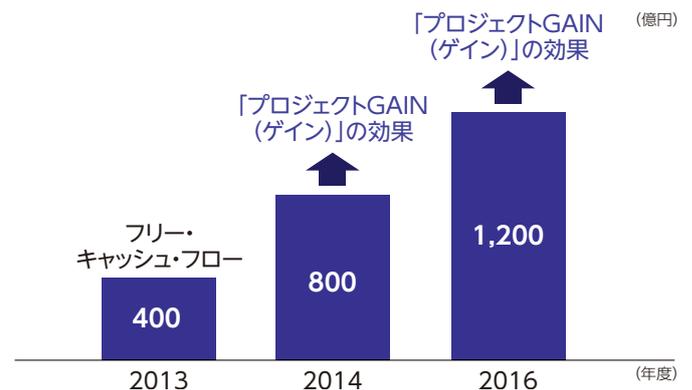
### (2) 財務体質の強化(2016年度までの見通し)

D/Eレシオのさらなる改善



さらなるキャッシュ・フローの創出

「プロジェクトGAIN(ゲイン)」で創出する資金は財務体質改善と成長投資に活用



## 3. 投資家情報サイトのご案内

決算や経営方針、IRニュースなど親しみやすく、わかりやすく会社情報を掲載しています

同サイトの「IRイベント」のページでは、今回ご紹介している決算や経営方針の資料だけでなく、説明会の様子を動画でもご覧いただけます。また、本株主通信もウェブ版を掲載しており、内容によっては、関連情報にリンクしていますので、ご関心のある情報により深く触れていただくことができます。同サイトでは年間100件を超えるIRニュースを公開しており、当社の最新の動向を知ることができます。スマートフォンからも閲覧可能です。6月25日に開催いたします株主総会のご報告事項も後日掲載する予定ですので、ぜひご覧下さい。



また、経営方針については、さらにご理解を深めて頂けますよう、外部の証券アナリストの方との対談形式のインターネット動画も用意しました。本年(2014年)12月初旬までご覧になることができます。

東芝ホームページの投資家情報 ➡ 個人投資家の皆様へ でご覧いただけます。

## 4. トピックス

### 電力・社会インフラ

#### 北海道電力 石狩湾新港発電所向け コンバインドサイクル発電システムを 受注しました。

北海道電力から石狩湾新港発電所1号機液化天然ガス(LNG)火力発電設備向けに、ガスタービンコンバインドサイクル発電システムを受注しました。当社と戦略的提携関係にあるGE社<sup>\*1</sup>製新型ガスタービンと当社最新鋭蒸気タービン・発電機を組み合わせた世界最高のプラント熱効率62%<sup>\*2</sup>を実現する発電システムで、計画出力は約57万kW(キロワット)となります。

<sup>\*1</sup> GE社:米国ゼネラル・エレクトリック社

<sup>\*2</sup> 2014年4月15日現在、当社・GE社調べ。低位発熱量ベース

### ヘルスケア

#### 事業展開の加速・拡大を図るため、 本年7月1日付で社内カンパニー 「ヘルスケア社」を新設します。

ヘルスケア社は、画像診断システムを手掛ける東芝メディカルシステムズを傘下におき、重粒子線がん治療システムやDNA検査キットなど当社グループ内の異なる部門で進めてきた関連事業を集結させ、一体的に事業を運営します。画像診断システムなどの「診断・治療」分野をはじめ、病気の発症リスクを低減する「予防」、病気や怪我の治療後をサポートする「予後・介護」、生活環境を整備する「健康増進」の4分野で事業の拡大を図ります。

### コミュニティ・ソリューション

#### 定置式家庭用蓄電システム 「eneGoon™(エネグーン)」の新モデルを 発売しました。

当社および東芝ライテックは、4月、10,000回の充放電後でも約90%の容量を維持できる<sup>\*1</sup>当社製リチウムイオン二次電池「SCiB™」を搭載した定置式家庭用蓄電システム「eneGoon™(エネグーン)」を発売しました。停電時にも蓄電システム用分電盤に接続された冷蔵庫や照明などを約12時間<sup>\*2</sup>使用できます。スマートメータの本格導入、太陽光発電や蓄電池、燃料電池を連動させて自動制御するスマートホームなどホームソリューション市場の拡大に応えます。



蓄電池本体イメージ

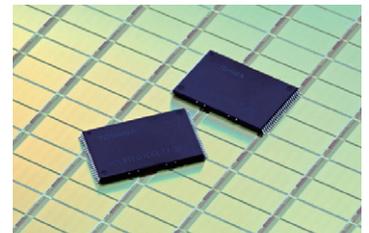
<sup>\*1</sup> 当社測定データであり、保証値を表すものではありません。お客様の使用環境により性能は異なります。

<sup>\*2</sup> 6.6kWhモデルの場合

### 電子デバイス

#### 世界最小<sup>\*1</sup>サイズのNAND型フラッシュメモリの 量産を開始しました。

4月、世界で初めて<sup>\*1</sup>、15ナノメートル<sup>\*2</sup>製造プロセスを用いた、世界最小<sup>\*1</sup>チップサイズのNAND型フラッシュメモリの量産を開始しました。これにより、生産性を高め、競争力の強化につなげるとともに、幅広い用途に対応できる製品を開発していきます。



世界初の15nmプロセスを用いたNAND型フラッシュメモリ

<sup>\*1</sup> 2014年4月23日現在、当社調べ <sup>\*2</sup> 10億分の1メートル

#### 四日市工場 第2棟を建て替えます。

5月、三次元構造のNAND型フラッシュメモリ専用の製造設備を設置するスペースを確保するため、第2棟の建て替え工事を開始しました。2015年夏の竣工予定です。製造設備は市場動向を踏まえながら導入する計画です。

### ライフスタイル

#### 色彩、輝きを向上させた 4K対応液晶テレビ「レグザZ9Xシリーズ」を発売しました。

映像事業と家電事業の一体運営をめざし、4月1日に新たに発足した東芝ライフスタイル株式会社は、5月より「レグザZ9Xシリーズ」の発売を開始しました。パネルの背面にLEDを直接配置した直下型広色域LEDバックライトを採用し、色彩、コントラスト、輝きを向上させ、メリハリのあるあざやかな4K高画質映像を楽しめます。



レグザ 50Z9X

## 株式会社 東芝

〒105-8001 東京都港区芝浦一丁目1番1号 TEL (03)3457-4511(代表)

### 株式事務についてのご案内

株主名簿 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
管理人 三井住友信託銀行株式会社  
連絡先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
東芝専用ダイヤル ☎0120-78-6502

ご意見・資料請求は株式会社東芝 広報・IR室あてにお送りください。  
投資家情報サイト

<http://www.toshiba.co.jp/about/ir/>

本株主通信に記載されている事項には、将来についての計画や予想に関する記述が含まれています。実際の業績は当社の予想と異なることがありますことをご承知おきください。